

## 牛群検定通信 No41

### ◇体細胞数の季節変化 ～残暑から秋雨～◇

秋雨の季節です。ご存じですか？乳牛の大敵である乳房炎を意味する体細胞数が全国的に最も高くなるのは、梅雨の7月や猛暑の8月でなく、残暑と秋雨の9月なのです。

1) 体細胞が高い季節は、9月を中心とした8～10月になります。この季節に体細胞数が高くなる要因として考えられるのは、次の通りです。

- ①夏バテが続いており、採食低下や抵病性の低下が起きている
- ②貯蔵飼料の変質（カビ等）による、低品質粗飼料の給与
- ③秋雨により湿度が高いことから、牛床や通路が乾かず、放牧場や運動場等も泥濘化が進む。
- ④秋雨で牛体が濡れたまま搾乳する。

9月は、夏季暑熱の影響が継続していることから①②の状況下で、この時期特有の秋雨による③④が加わり、結果として体細胞数を悪化させていると考えられます。

2) 体細胞数の季節変化

このように全国ベースでの体細胞数の高い時期は9月ですが、あなたの牛群では、どうでしょうか？検定成績表を使って、体細胞数の高い時期を調べましょう。様式AまたはBの検定成績表は、1枚目の13カ月推移を見るのが便利です。

3) 本例のように、9月の時期の体細胞数が高い場合

前述の①～④に留意し、夏バテから回復するように栄養管理を徹底して下さい。管理としては、特に秋雨で牛体が濡れたままの搾乳は、糞尿等で汚染された水滴が搾乳時に乳頭口から侵入するので厳禁です。また、この時期の涼しくなったからのミストは牛体等を濡らし、湿度を上げてしまうので好ましくありません。

#### 4) 晩秋～冬季に体細胞数が高い場合

本来、体細胞数が最も低下すべき冬季に、体細胞数が上昇するようであれば、これは寒冷ストレスが考えられます。隙間風や吹きさらしと、換気は意味が異なります。ひどい場合は乳頭が霜焼け等の肌荒れをおこします。保湿剤が配合されたデッピング剤の利用が効果的です。

#### 5) その他

ここにあげた例の他にも、体細胞数は各農場の環境によりいろいろな季節変化を示すことがあります。検定成績表で季節変化をとらえたら、その時期の牛舎環境や作業などを検討してみてください。季節的などころでは、風向や日照、梅雨など、また作業的などころでは放牧やほ場作業など思わぬことが体細胞数を悪化させる要因になっていることがあります。